



古今俳諧明題集

夏之部

中村俊定文庫
文庫 18
409
2



徳の文庫

古今俳諧明題集夏部目錄

| | | | | | | | | | | | |
|-----|-------|-----|-----|-------|-------|-----|--------|-------|-----|--------|----|
| 更夜 | 并拾 | 後初葉 | 五二 | 青葉 | アナスダレ | 二 | 抗摩祭 | ツクミツリ | 二 | | |
| 當麻祭 | タイニツリ | 二 | 日吉祭 | ヒエミツリ | 二 | 加茂祭 | カモツリ | 三 | 夏駒寺 | ナツノコヒキ | 四 |
| 松葉波 | マツハヤ | 四 | 千代園 | チヨノエ | 四 | 夏月 | ナツノツキ | 四 | 新麦飯 | ニウメイ | 五 |
| 昔暴風 | アラアラ | 五 | 短衣 | ミジカヨ | 四 | 牡丹 | オトキス | 後六至 | 牡丹 | オトキス | 八 |
| 新茶 | ニウチャ | 五 | 魚鯨 | イサノクヱ | 六 | 鳥辞巢 | トリノスダナ | 十 | 鳥辞巢 | トリノスダナ | 十 |
| 布穀 | フコク | 後八至 | 割葺 | セウキ | 十 | 鱸鱒 | カヒナ | 十一 | 鱸鱒 | カヒナ | 十一 |
| 鹿茸 | シカノコ | 後十五 | 編蝠 | カハトリ | 十一 | 鱧 | カヒナ | 十一 | 鱧 | カヒナ | 十一 |
| 秋菫 | アキノスミ | 十一 | 螢 | ホタル | 後十五 | 鱧 | カヒナ | 十一 | 鱧 | カヒナ | 十一 |
| 蚤 | ノミ | 十三 | 納 | ノミ | 十三 | 鮎鱒子 | アサギ | 十三 | 鮎鱒子 | アサギ | 十三 |

古今俳諧明題集

徳の文庫

古今俳諧明題集

目錄

| | | | | | | | | | | |
|-----|-----|----|-----|------|-----|------|-----|-----|----|--------|
| 桐花 | 蘇省 | 新藕 | 卷心菊 | 野薔薇 | 蕃薔薇 | 加蝶花 | 嬰粟 | 芍藥 | 松魚 | 新斷 |
| 廿二 | 廿一 | 二十 | 十九 | 十九 | 十九 | 十八 | 十七 | 十六 | 十四 | 十三 |
| 頰桐 | 白前花 | 藕荷 | 款冬 | 苦毛 | 野薔薇 | 加佐之末 | 虞美人 | 蓬子花 | 溪鱸 | 蟾 |
| 廿二 | 廿一 | 二十 | 二十 | 十九 | 十九 | 十八 | 十八 | 十七 | 十四 | 十四 |
| 撥桐花 | 海帶花 | 紫藤 | 紫藤 | 卷心芭蕉 | 續斷花 | 意波婦心 | 鸞尾 | 蜀葵 | 牡丹 | 阿未加淑類鳴 |
| 廿二 | 廿一 | 二十 | 二十 | 十九 | 十九 | 十八 | 十八 | 十七 | 十四 | 十四 |

| | | | | | | | | | | |
|-----|----|-------|------|-----|-----|----|----|----|-----|-----|
| 滿庭枝 | 葉櫻 | 復木立 | 加茂足齋 | 檄 | 五月暗 | 復薔 | 復猴 | 海枝 | 剪春花 | 金銀花 |
| 廿二 | 廿三 | 廿四 | 廿五 | 廿六 | 廿八 | 廿九 | 廿九 | 廿一 | 廿二 | 廿二 |
| 新生葉 | 每櫻 | 木下暗 | 同競馬 | 粽 | 水鷄 | 毛雞 | 鍋牛 | 乾河 | 復薔 | 蘇毛薔 |
| 廿三 | 廿四 | 廿五 | 廿六 | 廿六 | 廿九 | 廿九 | 二十 | 廿二 | 廿二 | 廿二 |
| 新旗根 | 夏柳 | 常葉木落葉 | 白葛 | 五月雨 | 水多葉 | 魚尾 | 莎雞 | 百合 | 萱子 | 紅藍花 |
| 廿三 | 廿四 | 廿五 | 廿六 | 廿八 | 廿九 | 廿九 | 廿一 | 廿二 | 廿三 | 廿二 |

古今事考類聚卷之二十一

粉親艸 卅二
 青田 卅五
 地膚 卅五
 紫茄 卅六
 蒙蔚 卅六
 粉竹 卅七
 粉圓花 卅八
 梔花 卅八
 栗花 卅九
 南七濁花 卅九
 青小椒 四十
 石菖蒲 卅三
 藜 卅五
 莓 卅五
 水茄 卅六
 菰刈 卅六
 杜筋花 卅七
 合歡花 卅八
 掃花 卅八
 依雲紫花 卅九
 小抽花 卅九
 青梅花 四十
 田植 卅四
 藜 卅五
 早松葉 卅五
 紅豆 卅六
 裙帶菜刈 卅六
 紫陽花 卅七
 松栢花 卅八
 栢栢花 卅九
 棟 卅九
 青小抽 卅九
 栢栢花 四十

葛 四十
 祇園沖興洗 四十
 不末垢洗 四十一
 不二膏消 四十二
 暑 卅五
 薰風 卅六
 轉馬竹伐 卅八
 單 卅九
 浚井 五十
 葛粉水 五十二
 瓊脂茶 五十三
 山田田植 四十
 破 四十一
 不二消 四十一
 不二神膏 四十二
 雲峰 四十二
 避暑 四十八
 招扇 四十九
 竹夫人 五十
 曝布 五十
 殮飯 五十二
 冷餅 五十三
 任吉田植 四十
 氷 四十一
 祇園舎 四十二
 去用曝 四十二
 凍雨 四十六
 蟹者油凍 四十八
 園扇 四十九
 掛香 五十
 備水 五十二
 餉 五十二
 練若毛子 五十三

古今片哥明是集卷之六

| | | | | | |
|-----|-------|----|-----|-----|-----|
| 海母捕 | 後五十二玉 | 飛鶴 | 五十四 | 鰯 | 五十四 |
| 菱花 | 五十四 | 鱈 | 五十五 | 藻 | 五十五 |
| 射干 | 五十五 | 薄葉 | 五十六 | 蓮花 | 五十六 |
| 葛花 | 五十六 | 踏踏 | 五十七 | 嬰麥 | 五十七 |
| 匏花 | 五十七 | 地冬 | 五十七 | 鋸齒葉 | 五十八 |
| 芋花 | 五十八 | 梅葉 | 五十八 | 虎身 | 五十八 |
| 麻州 | 五十九 | 飯子 | 五十九 | 壺盧 | 五十九 |
| | 六十 | 凌霄 | 六十 | 向日 | 六十 |
| | | 茅膏 | 六十 | 海州 | 六十 |
| | | 益州 | 六十 | 甜瓜 | 六十一 |

| | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 百日紅 | 六十一 | 百滿祭 | 六十一 | 伯吉祭 | 六十一 |
| 御後 | 六十二 | | | | |

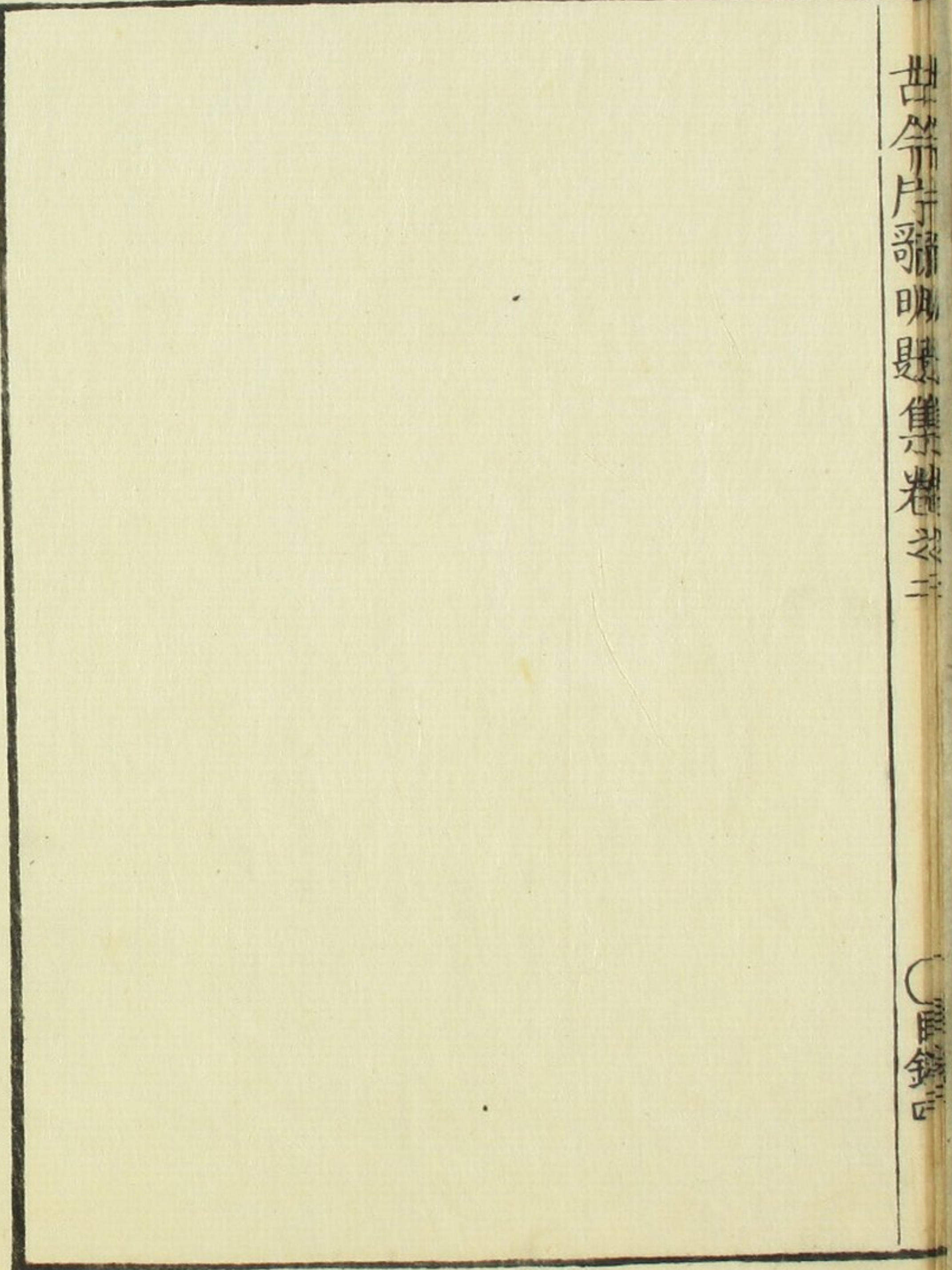


古今俳諧明題集夏部

更衣 并給 ころもくへ あこせ

計のあはたるにくぞゑうへ
 といほどに柳うごくやあろえうへ
 君さやふ花偷ヌスヒト思やこ詠もかへ
 物おとを袖のそとせうや文衣
 丈リモイ襦へ紺地にひひやあろえうへ
 瘦くそをくはあろえうへ
 飛トて見く石の拍圖や文衣
 厨タニス子くは伊曳出はや更衣
 浴衣を出さいろくやころえうへ

大坂 希因
 芳室
 凉俳
 全
 玉斧
 梅路
 小川
 谷水
 加賀金沢
 後川
 洗雪



去の秘室も跡やみさし
重なる乃を譲りし
押お戸もまゝに出入り
うの花は凌さやまよ衣
りふ見まむ妻ハ短し
襟く小柄がまゝ日や
蒲公英は除も飛り更
芽野うし枝はくやま
まのうしに出入りし
むまびめはぬえは
肩衣乃候り折し

六 枅
可 登
六 枅
一 紅
祇 德
竹 卅
汶 上
意 山
伊 山
洞 居
笑 林

こそくまに力けりぬあ
毒の後追うけし出
家ぬ戸をこし
ああまびの川へち
捨て見まむを親
四條し
夏瘦は一日齋
腹福が思
四方し
捕卷し

去 路
可 登
青 藍
魚 興
東 起
可 登
山 州
一 鼠
破 了
萩 丈

青簾 あをま

さうつゝあに子尋の歌やまきと座
女房を拵く出しりまきまきと座
備例ハ山のそよぶやあをまきと座
江 希 因
大 金 戸 谷
和 梅 人

筑摩祭 つくま

櫓 乃く湯にかく水るほつる
禹 貢

灌佛

ろと伐まかき木をまきまき
流が疎く老安住候あま佛せ
江 戸 明
為 谷

子ハ水の花飲一りりり佛せ
涼 備

流拵と夏結まきひや華街堂
全

水草花もまきりり佛せ
百 卉

椿くまき人候一りり佛せ
阿 坡

菖へくも穴に紙まきりり佛せ
去 路

踊りて水をめく縁や華
分 江

今縁のまきりり佛せ
柳 波

蓮池ハすくまきりり佛せ
雲 郎

朝ハすかまきりり佛せ
破 了

あろそにも縁見せりり佛せ
芭 叩

岩あまき門の袂歌や佛せ
信濃松本 友梅

日吉祭 ひえい

夜崎の雨ははりど日吉祭 東起

加茂祭 かものまつり

舟を寄せしめてはつり 去路

當麻祭 たぬひ

若後にもたむこは間や疎伏亭 東起
交通へ来く息付地蔵や疎伏亭 因山

千采團 せんさいだん

子采團今や松栢の力に代り 上毛岡野 麥央

夏駒牽 なつこのこ

牽駒の去や御座をおぼろり 涼備
駒牽や奇藤に松枝の戸ハ志げ 百夫
駒牽や松ハおもひにまき 汶上

松前渡 まつまへ

麦積る船の的や 仰が 嶽 奥仙臺 等水

短夜 みどり

短夜や浅はるきづき月も見え
みどりや炭火たきぬ御垣ち
短夜や歩切ひき夏之夜学に
見どり夜や夏之夜にも涼ひたす
短夜や床のまゝ水はひとりにも

一紅

伊勢川寄
浮石

李北

五菱

凉依

夏月 なつのはら

雨まじか花へしりり夏の日
汲水支の点きては星ぼるる
白曉の水窓へ入ればなほのつ

下毛真國

遠文

凉依

李趙

夜はなほとどろくやそれる朝日山

欄城

青暴風 あまのあらい

とどろくは青暴風はもろくもあ
負ふも来依露は林や草の
実り来もろくもあ

梅路

江戸
麥譽

三楚

麥秋 むぎのあき

清日此露もあちむあけ海
人里へ出さくはきびし麦秋
麦秋もあけは星の奈うあけ

青藍

萩露

伊勢
風喬

麦秋や一棹に一度此樽も有
色かろし山あらしを秋す麦秋
也ろの家此回へど昔へは麦の秋
琴詩
芭叩
凉帟

新麥飯 きんむ

麦飯此あ飯じや秋を又をふじ
依後述に付
鬼由

新茶 しんち

象年しんねんに整ふと来候 新茶少
新も此ろし蓮乃し一之類新茶少
巡礼乃定て出あ小新茶少那
圭宇
凉宇
西羊

山水すいすい馬陸ばりく拂ふ亭新茶少那
奥州藤田
尹里

魚鮓 うし

不ふろし鮓うけき急いそぎ一い杯はい鮓
菜なろしは地ち布ふく恒とこ居いや一い杯はい鮓
伯州多里
秋月
己令

杜鵑 ほととぎす

不ふろしほととぎすほしほととぎす寝ねりあけき
おもしそい若わかをまうけきり杜鵑
あはのねハ寐ねとせしほととぎすれよかほととぎすき
傘かさ此ころほととぎすもほととぎすやほととぎすほほととぎすしほととぎすき
凉兔
凉帟
素園
野坡

夜に花も移れハ長一かき
ほも菜も雲端は
引も移て又これと現也杜鵑
松愛り新新皮鞋也かき
かきまひだまの雲やわ
結ひいしそ皆さげ愛也ほも
解魔法師
やはふしを衣れとおも
うぐいも嘘も古もやほも
畫き
作す度様れうねや
空つれと採りしゆく山也杜鵑

後川
加賀金沢
禹洗
江夫
同金沢
舍桑
太卓
下毛足利
梅志
岸虎
江木
信州松本
同
鶴老
伊勢山田
東棠

少り歩の度衣をねまや
少う身も雲遊りそやほも
瀬田此橋を短しほも
大佛も雲の舟やほも
ねれぬも故憐し旅人や
草茂くふも白も言しほも
ほもよの海も
うけも痛の袖うし
梅もよの海も
ほもきす出ああ
かきまひだまの雲やわ
結ひいしそ皆さげ愛也ほも
解魔法師
やはふしを衣れとおも
うぐいも嘘も古もやほも
畫き
作す度様れうねや
空つれと採りしゆく山也杜鵑

後川
加賀金沢
禹洗
江夫
同金沢
舍桑
太卓
下毛足利
梅志
岸虎
江木
信州松本
同
鶴老
伊勢山田
東棠

者カ同リあふむく及やかとるまに
那ナらさ髪カミの行ユキ法ホウやかとるまに
ほととぎしホトトギシ撫ヌ摩マ乃ノ耳ミミはありアリの時トキ
まやえとマヤエト勢セふフやほとるまに
齋サイ鉢ハチへ粗コ率ソウを奈ナうウかとるまに
終シュウ心シンをまマふフをヲ聞クはとるまに
齋サイのノ友トモ捨スてテ礼レイかとるまに
舟フネは眼メをヲやリ進シメてテ細ホソくクまマす
ほホとト次ツギ村ムラニニツツとト急イソにニ
うウあアるル名ナにニ麻マ子コ曉トキやかとるまに
まマれレ茶チャ此コノ一ヒト滴ツキやヤほホとトまマす

杜 莫
左 琴
麥 林
温 故
素 花
讃岐高松
周 雨
越後西善寺
一 紅
江 戸
深 魚
伊勢山田
夏 陸

割ワ膝ヒザ一ヒトたタふフ衣イをヲ襟エよヨぞゾかカとトまマす
日ヒりリあアてテ想ソウをヲれレ縁エびビやヤほホとトまマす
まマをヲまマふフよヨ心シン智チもモれレまマとトまマす
ほホとトまマふフよヨ心シン智チもモれレまマとトまマす
まマをヲまマふフよヨ心シン智チもモれレまマとトまマす
まマをヲまマふフよヨ心シン智チもモれレまマとトまマす
まマをヲまマふフよヨ心シン智チもモれレまマとトまマす
まマをヲまマふフよヨ心シン智チもモれレまマとトまマす

一 鼠
百 舟
青 藍
冠 子
乙 路
京 風 状

布穀 かむこ

かむカムこコをヲ衣イをヲまマふフよヨ心シン智チもモれレまマとトまマす
門カド志シ免メくク傳デンをヲ入イるルあアらラんンこコをヲ
まマてテとト一ヒトまマふフよヨ心シン智チもモれレまマとトまマす

麥 林
曾 平
涼 帟

中
 入れを指活とせまらばやあ殺
 棹楪此をち候さやうやのむこそ
 切もあかろうさあ一かむこそ
 するとりふそくやうむこそ
 茶湯の境買ふ市やかんこそ
 まふ喰りぬ日永此里やのむこそ
 よい時〜酒を買ふあうむこそ
 山越せば陣しとあれどかむこそ
 松もさきききさきさきうむこそ
 賽銭此鋪依ふ〜もかむこそ

全 全 全 左 五 玉 一 笑 可 古
 布 上野武藏湯 十 絞 斧 鼠 林 登 由

人とり小もれ更らけさちあ報
 よもも然り葉う紙かてうむこそ
 かむこそ旅色奈又里に志ありけり
 二王さへひとちあずかむこそ
 松風り〜若れあひやうんこそ
 のむこそ迷ふもまんふうあさり
 水心井をまなくさやのむこそ
 清くあへはる〜うんこそ
 くはで畫く山を〜かむこそ
 若山〜も朽し〜んこそ
 枯枝〜あなぬとやあゆ

瀾 閉 射 若 秋 其 太 千 渾 眠 祇
 城 工 堂 非 午 汀 阜 山 遠 石 亟

画馬 影をふり 位やかむことり
母ハ 来り 叶ふも ああんことり
著 讀ハ 歌と 君れハ 井あり 有 教
うんことり 帝一ヤ 圃 此 然乃 曾
かむことり 舟も むうふ 志 畧 小 居る
の 世と ごと ちさみ けれも 耳の 級
有 志ば 山 乃 望 乃 せんことり
旭 ほとり 人 去り 小 あり あり ことり
菊 花 出 たり 乃 突 たり せんことり
葉 田 去 たり 乃 ことり あり ことり
午 時 飯 乃 談 合 あり ことり

可 卿
出羽林田
東
笑 林
青 藍
鳥 醉
白 枝
武騎西
芙 白
柳 居
琴 詩
涼 魚
越高津
文 鷗

ゆくも 此も 日乃 結ハ あり かむことり
おきて 人も お あり ことり

冠 子
一 鼠

割葦 ぎやう

ふく 玉 一 見 れ なる 乃 あり ことり
新 鷗 乃 あり ぬ 川 上 鳴 し あり ことり
燕 乃 あり あり あり あり あり ことり
舟 乃 あり あり あり あり あり ことり
う 乃 あり あり あり あり あり ことり
拽 船 夫 乃 あり あり あり あり あり ことり
船 乃 あり あり あり あり あり ことり

馬 月
可 由
玉 斧
洗 壺
仙 衣
雙 飛
去 路

古今詩林 卷之三

病シを乃ハ学ブ和ハ此レきやうくし
多ク母ノ水ヲ清ク好ム也キまやうくし
山ノ梅ノ叶ハもりもハ恥ハよキせうくし

凉 傘
眠 石
麥 杜

鳥辭集 トウシ

故レ梅ノ花ハ此ノ夜ニとシ信ズ辞集之ノ如シ
綴リ紙ハ乃チまリてハ柔クもシやリ鳥ノ鳳ノ
枝ハ先ニ飛ビてハ告ス天子此ノをシらズ

養 蚕
瀾 城
下毛那須
百 尋

鹿茸 ツルシ

志ヲ年ヲ何レ振ルこトしテ朽レもシまリ

凉 傘

麦ノ時ハ此ノかクあリまリやリ又チ前ノ
友ノ草ハ此ノ中ニ以テ甲ノ折ルやハぬクはリしテ
城ノ中ニ尔レ然ルのトもシやリ年ノくレはリの

眠 棠
竹 石
維 鳩

蝙蝠 フクロ

うハはハあリ也キ光ヲ柱ニすテ朽レ木ノやリ
かクほリもシ也キりハ輕ク口ヲすテ喜ム也キしテ
城ノ中ニ也キほリあリかク輕ク口ヲすテ喜ム也キしテ
うハはハあリ也キりハ輕ク口ヲすテ喜ム也キしテ
城ノ中ニ也キほリあリかク輕ク口ヲすテ喜ム也キしテ
のハ本ノ木ノやリまリ一ノ町ヲをシはリ也キ

百 舟
眠 石
破 了
一 鼠
白 枝
江 戸
什 國

古今詩林 卷之三

かゝるはるの松たぬさるう村へ出依
塙橋や余の懐くさすのちねもさうら
うはひまや画るまきへちをうけてる
梅福やこ目ふどふりのを冷うい

涼素
涼俗
青藍
江舞巾

琵琶城のひか

粟とせぬおまうらへはういこかお
ぬのおまう家をとまやかいこち
卵う縁もさうなういあうぬ

隱岐梁山
江戸奇雲
笑林

蘇蘭のまゆ

涼うさも雲ささうやう蘭う入

螢のほ

冷いさううた見とびるほうさ
乃終ううちうけてのくさう柳
され茶へ水あうら礼と雲かぬ
淡紙へ光のりドむほまうぬ
湖大偏陽さうさうなたふの柳
羨雲人の一管もいんかさ
小息女此あ小いさううら
あ片さうに女たのまむほうぬ

李趙
去路
涼宇
其極
涼俗
雪叩
杜門
白枝

古今和歌集卷之二

涼舟をたねに 朽ちてはるるのこ
糸よりたふし言残るは枯くはたさふ
蒲の穂より 燈を回るはるるの
隻袖はるやけり 雲をさかすの
扇扇乃扇眼やぬきて 飛はるる
故懐より 新母は 輝かす
善此より 色をたはるる
水より 流るは 飛はるる
雲より 蒼き 雲をたはるる
浮きよるは 雲をたはるる
かきよるは 雲をたはるる

麻父 雲郎 六持 涼素 雞山 祇翠 竹鶯 越前 可昇 阿僧 加峯

涼舟に 浦より 流るは 飛はるる
うさぎに つまみの 出来は 雲より
雲中に 虹を 借は 雲より
いくさびも 梅のかく 梅を 雲より
化しよるは 雲を 借は 雲より

涼舟 上毛前橋 不霜 大和芝村 素絢 笑林 青藍

蚤のこ

去路 超波

古今和歌集卷之二

廿三

古今新撰明題集卷之二

割練り候了や蚤のころくゆく 江得往

蛸 ぶと 江戸台澤

蛸の唇ぶとにきくく語ぐーさ

蜘蛛子 のくも 江戸湖雲

蜘蛛の子は皆丁をいっくぬく海 東起

蜘蛛の子やあまをたふくにきりけ

貼鱗 けむ 似竹

如意輪の眉そたけく海毛びーぶ

鱧 えり

龍ぶ見て捷徑をう候はあまーん 大和芝村林殊

阿末加敝類 漢名未詳

葉が巧とおひ色しあはかへん 涼笹

音かけ声はハハハハハハハハハ 飛良

松魚 かつ 一音

不^フ_キは^ジ呼^キに^テ文^キ伊^キあ^キり^キに^キお^キ松魚 鬼白

縁^ニに^キ流^キ屋^キ乃^キど^キを^キハ^キつ^キと

古今新撰明題集卷之二

〇十四

古今集卷之二

十四

鏡^{タテ}の山^{ヤマ}の^ミ呼^コは^レし^ハも^ツつ^クの^ヲと
炬^{タテ}の^ハか^ハは^をう^那那
初^ハら^ハの^ハあ^しく^らつ^とと
あ^けが^のあ^らぶ^らに^く神^ツ法^を
道^余ハ^まく^るを^づく^ら神^カの^を
可^ク涼^ス
百^百川^川
禹^禹貢^貢
涼^涼俗^俗
金^金谷^谷

溪 鯉 あゆ

活^レ輕^一の^水に^もの^り水^くは^ま
あ^ゆ初^初や^初初^のを^へ枝^くや^は
近^近一^一音^音
湖^湖野^野帆^帆

牡^ホ丹^{タニ}

冷^ヒつ^つと^思ふ^をお^どる^牡丹^丹
ぬ^きは^はで^日の^西の^くか^くは^は
こ^ろろ^ろの^烟の^出ま^る牡^牡丹^丹
飛^ビの^りの^念は^高り^牡丹^丹
情^モ識^レに^恒閑^々は^たび^々を
ふ^ふ金^金は^事に^も事^々で^牡丹^丹
そ^の後^は十^日ハ^ウに^がく^らあ
情^レは^長ぬ^くは^ふつ^びは^くら^い
ま^の中^に舌^のく^くら^や白^牡丹^丹
履^きハ^花を^ぬぐ^て牡^牡丹^丹
建^つ先^くは^はに^さえ^ぬ牡^牡丹^丹
上^上毛^毛前^前橋^橋
雙^雙飛^飛
雞^雞口^口
玉^玉斧^斧
子^子永^永
兩^兩石^石
涼^涼俗^俗
全^全
希^希因^因
素^素輪^輪
大^大和^和羅^羅井^井
洛^洛兒^兒
胡^胡周^周

古今集卷之二

十五

びーら^バ及へそ^ツぬが^んん^ハ
 東門へは^カ若^サは^カ出^カく^サ来^カ居^カ牡^カ丹^カハ
 月^カの出^カく^サ暈^カは^カ一^カか^カ居^カ牡^カ丹^カハ
 目^カうつ^カま^カに^カあ^カら^カひ^カ被^カは^カが^カん^カハ
 さ^カー^カら^カげ^カく^カ枝^カは^カく^カへ^カ牡^カ丹^カハ
 偃^カ外^カを^カな^カ乃^カか^カく^カる^カは^カた^カむ^カう^カを
 杉^カ戸^カく^カ獅子^カは^カを^カむ^カび^カく^カ牡^カ丹^カハ
 停^カ年^カの^カあ^カも^カ奥^カあ^カれ^カが^カん^カハ
 美^カ濃^カに^カそ^カを^カ出^カそ^カや^カを^カ牡^カ丹^カハ
 阿^カ第^カぞ^カ之^カを^カ出^カそ^カが^カん^カハ
 除^カく^カを^カ府^カに^カつ^カふ^カは^カん^カハ
 麥舟
凉宇
李北
白陀
其梅
一鼠
雞山
五城
琴詩
可卿
下毛足利
深竹

挿^カ卷^カに^カ柱^カの^カか^カを^カ海^カ回^カえ^カん^カハ
 周^カ山^カを^カ繞^カい^カく^カか^カく^カ牡^カ丹^カハ
 上毛桐生
舊礎
山州

芍^カ薬^カ
 芍^カ薬^カや^カサ^カ日^カあ^カく^カえ^カを^カ冢^カと^カり^カ
 氏金崎
立鼠

熒^カ子^カ花^カ
 遍^カ照^カハ^カ船^カも^カつ^カぶ^カる^カ喜^カ子^カ也
 負^カふ^カこ^カ子^カは^カ故^カへ^カつ^カか^カ記^カつ^カを^カ
 け^カり^カあ^カく^カと^カ橋^カを^カく^カそ^カア^カく^カさ^カは^カら^カ
 用^カの^カあ^カ水^カの^カそ^カを^カ歩^カて^カあ^カは^カら^カ
 美濃
希因
吟水
越後高田
雨鼻
梅雨

古今新撰月題集卷之二

輿梁のてさく池る加炭部堅多
跡ふさる水を蕪やうさつはと
水際には柳のきやか我はむと
割れハ魚はさるさの炭はむと
そく後く御地也や加我部堅多
懐に留ぬくさあさうさつり
水吉の池くさ海やかすはむた
蓮子花葉のほくさ池小炭く
体はのさめく在くやうさつり
濁子雨ハ池水もか我はむと
跨れ子の神つ耐や下炭部堅多

可石 樂
可也
凉 俣
棠 江
希 因
柳 居
露 田
如 本
伊勢山田 藤 尺
同 宇治 竹 佐
加賀金沢 五

泉ふく木匠也くさまのた
新しにりふもあちうたむ
公家りふの鞠仕体もかきり
鶴鶴も忘りけありのさる
はふ響の夜ハ池もさ葉はむと
確り来た下戸れ姿や長子を
粗小の姉さあをさる子を
業よも下りさるさるさる

士 鳳
白 山
麥 林
雙 飛
笑 林
筑前福岡 白 杏
祇 翠
青 藍

蜀葵 ひあふ

ちり上より答をほごすりふいふ那

加賀 九 兆

古今集 卷之三

木りて倦ふも此来く居るる君を
ちりてほりひもある夢の
上むく腐へ見されあふか那

備後福山 蘆山 道
伊勢井關 巴山
凉宇

罌粟 けし

罌粟此をもぬいね此百に敷て
徳ハ来ぬ日若れあふけし此
約朱の一日逢しけし此を
足まゑ那入るさあむやけし
蝶く此あきれく返りけし
疵もけし風り糸りくあけし

凉袋 阿僧 さと見 凉袋 其梅 東起

敷るもれとさるく一け志乃を

凉袋

虞美人 びあん

美人さふやめ歌時の折涼

奥山臺 丈芝

鳶尾 いら

紫羅傘やさもいさても歌う
いらもや何をもとめ家棟の上

去路 李趙

蝴蝶花 ぐや

銅鈿り家取り留まふやぐれを

上毛高崎 巴 穂

古今集 卷之三

古今事類通考

加佐久留末 漢名未詳

あはれそふて蝶をこ敷きや風くるは
なご白り新をまはしや風久さま
吹きもほもぬもれ風くるま
踏はるにおーやう礼うあ風くるは
又さまは花のあ敷ーやたくま

江戸 冬花

眠石 武蔵守

溜水

青藍

冠子

意波婦知 漢名未詳

いもぬちや 松北日法乃ふさく
いもぬちや 松北日法乃ふさく
いもぬちや 松北日法乃ふさく

希因

和鳴

蕃薇花 やうび

堅石のいあふ同門やとあーやうび

江戸 蘭臺

野蕃薇 はら

機糸のよけくぬもやむうび
同済に袖ことあはやはあうび

武杉戸 二毛

眠石

續斷花 むら

刈にあふもあうびをうび
伊の時あふもあうびをうび

大坂 温故

梅從

古今事類通考

十九

古今竹枝詞題集卷之三

野燕麥 ちやひ

合子飲アハク猥ク水クしク柔ハひクさク子
老ト大ヨリにク花クろクろクつクいてクちクやクひクさクさク

沾雨 花明

苔花 こけの

若フ草クあクてク青クかクークこク市クのクまク水
踏ムあクのク又クぬクらク水クろクりク苔クまク花
息ク杖クのクろクろクりクほクろクりクやク苔クはクまク花
ふクでク見クはク束ク束クのク形クやク苔クまク花

江 舊戸 乙路 文体 双飛

卷心芭蕉 たまぐ

画タみクのクかクごクークくク又クこクまク芭ク蕉ク水

去路

卷心葛 たまぐ

巻タぬク糸クれク玉ク水クやク毛ク葛クのク露ク

阿波徳島 来雪

歎冬 ふき

除タるク海クとク傘クのクりクろクいクもク歎ク冬クをク圃ク

豊前小倉 如鼠

紫蘇 し

春タ日クのクれク色クやク毛ク蘇クのク圃ク

上毛前橋 不霜

古今竹枝詞題集卷之三

古今新故明願集卷之二

新藕 はまの
溝にくひいねまをうねうを

是利
雨石

藕荷 はまの

先花乃座とよは蓮れ浮葉外
飛石のまづれいまをうを系外

涼体
後川

筒 たけ

筒やみどりいおともたをりしむ
くげ乃こやゆねよふまういねうを

常陸小田
雞山
潭水

くげのこや児の齒眼 ハシ
筒やぬはぎに出るまをりしむ
弁の子や長るに傳く枝う 葉
たげれ子乃おろし毛やうは堀牛
非の子やまよぬれま盗まは
筒やぬ乃冷し衣 エをかきおはせ
筒や何まをうをあて水 水
くげれこや何まをうをあて水

嵐雪
去路
雲即
涼袋
李北
一鼠
奥列来
湖秀
破了

篠筍 のこ

まぐ乃こや指やうと根をたき海

越中魚津
倚彦

古今新故明願集卷之二

古今新故物語集卷之二

と乃こや 海万おろしは好のつき

女 地錦

白荊花

まうの

う乃むハエにも満ちぬりうり
うのふやうにハ暈とる影し
うけ花や清れ福をまきまも引
白荊花や清くこころをまも
うまむや枯くハ折留まも
うのう風や月あつ枝折るん
う乃即や軸くぬ水もこころ

涼宇

楚岫

求古

鬼白

涼袋

古由

白水

錦帯花

つきの

神垣も雨舎挿し花や
似嘆乃又挽く輪や
花うらま籟のうらハふぐ

下毛那須
幽知

斗白

涼湖

桐花

まての

堀切ハ井戸に挿く葉まりの花
桐乃む小舌の梅枝を
枝ハ未だ似きをせ
きつく葉ハ鳴し
葉の昼のおろしや

門瑟

涼袋

白枝

涼宇

胡周

古今新故物語集卷之二

古今和歌集卷之三

とれ志里乃雀も再くも桐の花

大和 晴帆

頼桐 ひきま

肥前平戸

婿多しむ海や頼桐の奥ゆき

免延

ねくもくもや虫の多く 産久し

吐雲

桜桐花 志少子

上列赤岩 度江

掃とのたふい晴元ちち志ゆるれむ

満庭枝 呼くて

牛に水とる乃が時をたたくてけ

呼雪

新生葉 ちの

水菜屋の家棟とくといふ新葉水 李北

花さく海にめぐらぬりうばく水 涼袋

やりにて寝乃かぬり新葉水 玉斧

高底とらぐそ海へるまのちうな 涼洲

樹株とちあましく見る葉水 其梅

葉もたけく陽れくひるまうらな 秋瓜

鼠

よし〜も鐘櫛の重きり〜

芭叩

新雄楓

〜ヨリカ

御水流り〜水枯れ乾き新雄楓
鞠垣下〜婿乃配里也〜
乳房〜眺望床也〜

涼袋 希因 去路

葉櫻

〜

葉桜也〜申乃人老あ〜
葉〜〜小田〜
葉竹〜〜也〜

希因 似竹 雞山

實櫻

〜

実さ〜〜也花端〜思よ志〜
〜〜也〜と殊を山なる〜

温故 琳李

夏柳

〜

夏とれ〜飯粒〜
〜〜布袂〜
〜〜〜夏柳

一鼠 涼帝 乙路

夏木立

〜

古今詩林用題集卷之三

可登
後常陸小田丘
可由
涼袋
双飛
去路
三楚
白枝
荻丈
琴詩
起鳳

可登
後丘
可由
涼袋
双飛
去路
三楚
白枝
荻丈
琴詩
起鳳

里脚
瀾城
李址
斗下七足利白
平胡

里脚
瀾城
李址
斗白
平胡

木下園

破了
雨篁
大阜
阿波日知佐水

破了
雨篁
大阜
阿波水

古今詩林用題集卷之三

北

古今片哥明題集卷之二

宮のちの禁けさやうきや
木下晴きれよのる乃降くか
碑よりあけぬ競健やこよ
花よりうしくよハく水や木下晴

涼宇
鳥久
目利
玄芝
眠石

常葉木落葉

とさうき
のちちた

常葉木やうきけし裸と忍く
かをふれやもたけきうぬ中か
たのともあまうきくも足き

日向延岡
青柯
備前岡山
雲麻

加茂足齋

かとのあ
くさく

たのともあまうきくも足き

京
麥生

同競馬

折しうか鞘もさへり競馬

摺別魚崎
園巷

白菅節

あやめ
のせと

浪豆の糸ぶかりくやあやめ
あやめくさくさく涼き下なる
五日あまぐ水良きくあやめ
十葉家氣につく日やあやめ
縁珍く様くくくあやめ
あやめくさくさく涼き下なる

麥林
志ん
桃隣
李北
下総多子
鍾子
涼洲

古今片哥明題集卷之二

六

點瀛^ア一^イびづ^エと結^オてき^カ白^ク菖^ケ蒲^コ代

乙路

識^シの^シ不^フ

蕨乃^アらせ^イく^エハハ^オは^カ結^ク屋^ケも^コル
山^サ風^フの^フ系^フと^フ思^フあ^フる^フく^フ乃^フや^フ里^フ久^フれ
い^イひ^イあ^イり^イく^イ婿^イハ^イさ^イび^イ一^イき^イ識^イハ
漢^{カン}さ^{カン}一^{カン}て^{カン}思^{カン}の^{カン}見^{カン}お^{カン}路^{カン}を^{カン}結^{カン}や^{カン}里^{カン}

江戸 宗瑞

希因

凉依

一鼠

粽^ズき^ズら^ズ海^ズ

鯉^リハ^リ水^リこ^リよ^リ結^リぬ^リる^リあ^リひ^リ也^リ若^リ粽^リ
夏^カ結^カり^カ叔^カ思^カと^カ思^カと^カ思^カと^カ思^カと^カ思^カと^カ思^カと^カ思^カと^カ思^カと^カ思^カと

信列野元 凉袋 可有

五月雨^{イツ}雨^ツさ^ツら^ツみ

石^イも^イ矢^イ始^イた^イら^イん^イど^イき^イ時^イど^イ々^イ々^イ
系^ケ始^ケあり^ケり^ケを^ケこ^ケも^ケあ^ケら^ケき^ケる^ケ
菖^シ塚^ツに^ツ麦^ツ乃^ツ甲^ツ塚^ツや^ツく^ツら^ツさ^ツあ^ツ也^ツ
あ^アら^アる^ア海^アや^ア山^ア川^アさ^アら^アく^ア結^アに^ア塙^ア牛^ア
五^イ月^イ雨^イや^イ糸^イの^イ思^イ堂^イの^イい^イれ^イ也^イ
控^コ船^フも^フ控^フく^フお^フう^フれ^フを^フさ^フら^フる^フ
小^コ油^ウに^ウと^ウ思^ウの^ウ思^ウも^ウや^ウさ^ウつ^ウさ^ウ也^ウ
五^イ月^イ雨^イよ^イふ^イせ^イ免^イく^イ思^イ堂^イの^イ下^イ
寶^ホ一^ク一^ク吊^ク桶^ク結^クる^クや^クさ^クら^クる^ク

甲列黑沢 温故

如岱

凉宇

雨篁

甘棠

一鼠

白枝

超波

吟風

梅法に日影をひあはさしき河を
よもよもや陸にまやりの收 鷺 鷺
山門よりまつくまや さくさく
蜀より鳥水もあくる 五月
紫陽花の影を志つてや 雨
くさく川あはれも川さくさく
ふもふも 雨も 雨も
此れれや川さくさく 雨も 雨も
挿處如り 梅もやさくさく 雨
さくさくや 雨も 雨も 雨も
さくさく川さくさく 雨も 雨も

秋干 武杉戸 雁志 乃飛 全 千竹 不席 司 免士 京 負徳 可也 木仲

梅法に日影をひあはさしき河を
よもよもや陸にまやりの收 鷺 鷺
山門よりまつくまや さくさく
蜀より鳥水もあくる 五月
紫陽花の影を志つてや 雨
くさく川あはれも川さくさく
ふもふも 雨も 雨も
此れれや川さくさく 雨も 雨も
挿處如り 梅もやさくさく 雨
さくさくや 雨も 雨も 雨も
さくさく川さくさく 雨も 雨も

王才 京袋 破了 黄牛 笑林 凉袋 石見大回 邦石

五月 閏 五月

古今戸部明見集卷之二

水鷄 すゐけい

控^マく^マし^マに^マあ^マら^マぬ^マ乃^マは^マう^マぬ^マ秧^マ雞^マう^マも
鷄^マも^マた^マけ^マハ^マ起^マる^マく^マひ^マま^マ・つ^マと^マふ
起^マる^マあ^マら^マぬ^マを^マ始^マと^マ志^マき^マあ^マら^マぬ^マ鷄^マハ
を^マけ^マ形^マハ^マこ^マこ^マに^マあ^マけ^マる^マ秧^マ雞^マハ
之^マ雲^マの^マ意^マと^マ家^マけ^マを^マく^マひ^マま^マつ^マを
る^マあ^マら^マぬ^マ水^マつ^マま^マき^マく^マひ^マま^マつ^マを
と^マぬ^マち^マう^マら^マう^マ月^マ見^マこ^マこ^マう^マる^マ鷄^マハ
永^マみ^マあ^マら^マぬ^マこ^マこ^マひ^マの^マ志^マき^マく^マひ^マま^マつ^マ

青 藍
萩 路
二 毛
涼 傘
希 因
可 枝
の 川
寛 之

煩鷄 わづら

黒^マう^マも^マや^マは^マ田^マの^マ割^マれ^マる^マ竹^マき^マく^マひ

周防 吹

水鳥巢 みづとり

鼓^マけ^マと^マも^マ卵^マハ^マこ^マこ^マぬ^マく^マひ^マま^マつ^マれ
水^マ鳥^マの^マ巢^マハ^マこ^マこ^マき^マ築^マハ^マル
こ^マこ^マあ^マら^マぬ^マ水^マ鳥^マの^マ巢^マハ^マこ^マこ^マき^マ築^マハ^マル
永^マみ^マあ^マら^マぬ^マ水^マ鳥^マの^マ巢^マハ^マこ^マこ^マき^マ築^マハ^マル

涼 袋
双 飛
一 色 坊
加賀 守

夏鷹 なつたけ

鷄^マハ^マこ^マこ^マ中^マも^マ微^マや^マく^マ棗^マの中^マ

維 鳩

毛脱鳥 とくぬけ

風乃ちよのふと友とやぬぬけを
像寛とゆもるるにぬぬけを

兔洲
西羊

喚起鳥収音

うぐひま
とをいす

うぐひまや子にうひまけりまよ

白枝

復穢

うづつめ

野糞に以てくさるるやも一斗
文りや夏の穢場と大にあつて
あ乃目よ火事やあ乃山まきも

正秀
梅路
破了

蝸牛

うづつめ

雷ノ角ぶじふやうつ好る
角むまびきく曲糞ひえよ端牛
まようく形へ池やうくあ
かつあち歌糞 糞と拍あま
あれほご、慣やも角や端牛
柳くく 落く 落く 端牛
かきおちあち 端牛
播鐘乃底と頂やかつあち
あつあつと 端牛

尾張 一 水
去路 能登路 一 甫
晚九 禹月 凉袋 阿坡 一 音
紫苑

古今作新明題集卷之三

才角れちぬぬ磁るやうつりあ
るをへの海流くく 如や塙牛
之勝こころよニ大肥やうつりあ
百系と葺くあまうやうつりあ
隣しく我思やあまうつりあ
耳塚に取出一くまわはつりあ
蓮乃系外子えちや 塙牛
後多うく角ハ消くくまわはつりあ
何るふくくうんふちやうつりあ

乙 姑
如 峰
為 明
百 井
涼 宇
示 行
乙 路
近江 瀾 城
緑 野 江

莎雞 はた おり

くくたややちへニ海嶽あり
くくおりあまも峰乃 終宵

千 山
千 林

避蚊火 かや

壺^{ユラカホ}廬乃むせうくひしく蚊をくれ
むくくく後れきつおのかや
惟光ハ涙去ぼくくやうり奈
引裂くおまひきるおのふち
下山ろりききおひせてかや
成たさよ我度も起く故や
涼^{スズ}つるあまう 胡^コ梅^メのちるや

希 固
京 射 堂
子 鳳
玉 斧
洗 雪
涼 傘
五 裘

古今作新明題集卷之三

古今新集卷之二

涼一とを汚一のぶるうやもうな
 涼一とを後子とてくうお路うな
 復れおと火種に漬くかや紫水
 姑乃あなきぢるるやまのね
 新婦乃あしくくくくやあは
 一あきあ話の消くぢるやま
 出旅婢女 姑娘こまきるるやあは
 喜い由と大まへまぢるやま

秋午 雙飛 一紅 蓮之 其梅 白志 江戶 魚尺 遠 龜文

乾河豚 いぬ

風俗乾くもあやしくぬ河豚水
 涼く水くやふ乾く事あはしく
 物よあぬ後と乾く水く河豚うね

乙路 東島 青藍

百合 ゆり

日くやけるはおわえくや百合花也
 毛花おもあ欠のあやゆりゆりの毛
 瞿妻花遮陽もよりゆり花
 菊に何とあゆりゆり乃もあ
 折るあ人へ背中や百合花也
 手枕の影へ出向やゆりの毛

涼袋 吳江 二毛 雙飛 上毛菊 友枝 冠子

古今新集卷之二

世二

剪春蘿 いづ

能くふいさやーのくひのむねあ

千林

夏菊 きく

夏菊や夏川海を見せく空く
夏菊にあまごりけや夏海うあ
あつきくや杖つくわがの風ハ

河坡
希因
花明

萱草 よもぎ

枯ふえく蘘荷もさーのそれ

汝上

昔よりも今いふはあはれそ
拙いさるるやさーも忘れそ
今物と見えこやさるあ忘れそ

去路
近江日野
士高

凉宇

金銀花

弱くも心算かある有金銀花
歯あわゆる名酒の敵や金銀花

此君
周防三田尻
楽下

藤天蓼 あまた

あつびや嵐きくひ乃に

奥列来折
而

紅藍花 くろいの

深凡一物おも一と也一お藍も
新未ハ澄が肌お水む魚に枯たれ
あほれくハもと枯あしお藍も
唇もととぬお鱗也一魚一圃
るも一乃新に澄る也魚にのち

江戸女
二蝶

鵝觀州 かやつ

爰乃藤之也一ちととぬやうあ

園花

石菖蒲 いさぶ

石菖蒲一眼は是也一ころれをん

周防山口
舟甫

田植 たう

うき人一り一臂もちかけく田植也
其字人を待つて帯も田植とよ
つれよちも後一と田うゑるよ
抱も其も時につけよ也田植一
畔ハ川嫁く他お田一と
樽為一人と一田一と
湖一踏くも一と一と一と
新婦一のたまくと一と一と

涼袋
太阜
素園 大和芝村
素綯
涼袋
全 加賀金沢
露 奥州津輕
竹

挿^サ處^ト女^メや子^コ乃^ノ泣^ナくま^ム挿^サくゆ^ク
もも^モ捨^スく^ケ居^イけ^ケを^ヲあ^アり^リた^タる^ルを^ヲ
子^コ中^{ナカ}り^リ藜^シと^トひ^ヒ一^{ヒト}粒^{ツブ}回^マる^ルを^ヲ
澄^スむ^ムす^ス下^シ班^マ乃^ノ満^ミり^リた^タる^ルを^ヲ
兼^カに^ニ子^コと^ト花^ハを^ヲく^ク蘇^ソり^リた^タる^ルを^ヲ
と^ト呼^コぶ^ブと^ト水^ミ鏡^{カミ}と^ト回^マる^ルを^ヲ

加賀 棄拾

上毛高崎 涼戸

文東 麥仙

水樹 五裘

青田 あし

露^{ツキ}雲^{クモ}花^ハを^ヲ散^チゆる^ルを^ヲま^マり^リた^タる^ルを^ヲ
流^ナる^ルを^ヲ見^ミた^タる^ルを^ヲま^マり^リた^タる^ルを^ヲ
水^ミ底^{ソコ}の^ノ回^マる^ルを^ヲま^マり^リた^タる^ルを^ヲ

涼袋

信濃松本 寛之

奥列二本松 一声

澄^スく^ク水^ミ乃^ノ泣^ナく^クま^ム挿^サく^ク
踏^フ乃^ノ尾^ビの^ノ小^コき^キや^ヤふ^フま^マり^リた^タる^ルを^ヲ

涼宇 免士

耘 たぐ

目^メ能^ノく^ク老^コ澁^シの^ノか^カを^ヲた^タる^ルを^ヲ
水^ミ乃^ノ泣^ナく^クま^ム挿^サく^ク
男^オ氣^キ乃^ノ何^{ナニ}も^モそ^ソら^ラを^ヲま^マり^リた^タる^ルを^ヲ

能登七尾 麥風

上毛後園 其由

素論

藜 あし

枝^エ乃^ノ泣^ナく^クま^ム挿^サく^ク

出羽 呂丸

地膚 はく

はくきくやいれく階除く掃もくは

上毛高崎

凌風

苺 ごいち

袂うく蟻乃出くゆく心ちごくを

出雲大社

もも

早松葦 さまつ

早松くけかきまけ言も松ぼくを

武加須

晴山

老犬くはく捨くあり早松葦

涼戸

紫茹 むら

び

紫茹にも色やゆきく初はあま

肥前長崎

糸のしほむ糸松花や初はあま

貞休

魚板く巾さくも糸初はあま

百夫

圃に今五色の新糸まゆくの那

太呂

ナヲむく花選つくく初はあま

下毛那須

水茹 ながま

初はあま初はあま

涼俤

豇豆 げん

尺登く虫乃掃くぬきけくう糸

上毛高崎

把菊

古今片歌明題集卷之二

あまのこをよおすうさうげうた

雲 郎

栗蒔 あき

栗あきや 鶯乃拾ひりたりぬ中

上毛高崎 自 楽

菰 刈 よこも

ふぬへはれせうもあきあき菰刈

豊前小倉 李 完

裙帯菜刈 りんたいめ

まぶらきと見えぬる 裙帯菜刈

佐渡 祇 十 南 竹

新竹 こしくたけ

稲あしに隠れおやせこと

武八王子 進 瓜

新舟や 利休と云る棄

双 飛

今脱と袴もありぬあや

笑 林

柳ほと出てとあけりど

涼 袋

蛸トコ乃ほこし後ハも

雀 阜

新舟や 西カクやよ紫の

青 藍

風どろり葉を吹出さ

素 園

尺八乃ひふつけあり

大和 珈 凉

古今片歌明題集卷之二

千 代

古今月歌集題集卷之三

さくさく〜とさくさく〜的やこと〜

江戸 千梅

新井や〜花〜

帯河

ま〜と〜も〜

上毛前橋 一鼠 胡曉

新井〜物忌のよ〜

江戸 女野菊

五〜〜も〜

江戸 女野菊

下暗〜陽乃〜

涼洲

紫陽花

大阜

あぢさゝお色〜

和水 紫苑

阿ぢさゝお色〜

紫苑

粉團花

由戸 去路

乳母乃手と休めに〜

由戸

杜能〜

大和柳本 一紅

新枝も〜

奥州越後 古笛

古今月歌集卷之二

世八

古今戸部明集卷之三

傾城ふおさされと思や一秘ぶのむ

涼宇

柘榴花 くろなざ

大坂

破も然小蕪指ハ今あさちをざら路
実のさきく突ひうけしちをざら

すの
芭叩

梔花 くちなふー

筑後入留米

くもなりやふむむく合観を華の友

羅洲

橘花 たちたち

再可

橘やむうーゆちの家ふさく

枸橘花 からたち

奥州栗折
得秀

うらたらや苦ろろひねを敷るみ

栗花 くまの

烏林

傷損乃なる夏枯軟そや栗のむ
手結ひろろあくやや栗乃毒

双飛

佐香幾農波奈 漢名未詳

江戸
介我

人志ろ收邪やさうきとろぬの友

古今片次月題集卷之二

廿九

古今片歌集卷之二

棟 あふち

じんまると棟戸一雨乃むくもり

とせ

南天燭花 あまてんか

七有と乃むやさくもり

雲和

小袖花 こすべ

偷思 ススビト をよくあつた少花袖

去路

青小袖 あおこすべ

色乃鼻くくくく喜小袖

涼袋

下枝一掃せく空うぬす小袖

涼宇

青山椒 あやせ

息つひく國能流 くにのなが 喜山椒

維鳩

青梅實 あまめ

喜梅や男能凡も涼ある

双飛

枇杷實 あまなし

枇杷に実の入りや味きたの

東起

梅好の多しや枇杷能冷ひ

古今片歌集卷之二

近江膳所

東起

甚のい

素子実中一抱くハ夏も茶餅

下毛足利
遼雨

山田御田扇 やまたのい
あまのぎ

御田解持取人ううあふうあ

幾曉

住吉御田極 むらさき
あんなうゑ

吉日姑極女とよぞんたるゑうれ
ゆりけく乳さへもろお田極うま

泉州堺
南天
下総佐原
鬼工

祇園神輿洗 ぎおんのい
あらひ

清れくつく涼おの葎色御雲昇

京一九

醴 ひげよ

梅乃来く丸合まうあひくう海

豊後球珠
馬負

氷窟 ひむ

水も清く包か成やひむらも
忘れくハ梅見もたう氷窟さ
カビ衣乃人偏結く氷窟も
二日く涼み出るや氷窟守

涼依
麥水
瀾城
破了

古今戸部明集卷之二

不盡垢離 ぶじん

富士垢離や雪とけいふふ肥より
垢離へ来ては是れはあまふに垢離

江戸 孤屋 涼俣

不二詣 ぶにま

物言を離れしやふふの
一日孤をいむるやふふの
いふの首に夏いふがはるふ

乙路 下総小見川 巳十 東起

祇園會 ぎおん

祇園会やあまふに垢離

如木

祇園会やあまふに垢離
祇園会やあまふに垢離

洗市 六棟

不二雪消 ぶにゆき

今解る雪やあまふに垢離

涼俣

富士初雪 ふじのゆき

富士初雪も降るはふに垢離
富士初雪も降るはふに垢離

涼俣 西羊 麥汀

古今戸部明集卷之二

四十二

古今事類通考卷之三

鞍子花乃落飲^{ハカ}刺^カ一^ク河^カさ^カな
腰掛子袂のさぐ^{ハカ}於^カ河^カさ^カの那
似^{ハカ}城^カ結^カ鏡^カへ^カか^カよ^カふ^カ河^カさ^カの那
蝶^{ハカ}啼^カる^カ朝^カの^カう^カき^カあ^カの^カを^カ小
不^{ハカ}二^カの^カ雪^カた^カし^カに^カ足^カさ^カあ^カつ^カさ^カ小
風^{ハカ}鈴^カも^カと^カ結^カ忘^カれ^カる^カあ^カつ^カさ^カの^カ那
射^{ハカ}子^カ乃^カ一^カ時^カ一^カ箭^カく^カあ^カの^カを^カ小
糸^{ハカ}子^カハ^カ解^カり^カし^カを^カあ^カつ^カさ^カの^カ那
清^{ハカ}去^カの^カ又^カえ^カよ^カひ^カて^カあ^カの^カを^カ小
才^{ハカ}伎^カも^カつ^カき^カく^カ裸^カけ^カあ^カの^カを^カ小
そ^{ハカ}ふ^カら^カの^カ皆^カ元^カと^カし^カあ^カつ^カさ^カの^カ那

鳥 林
凉 宇
李 北
止 弦
江 雀
加 雀
賀 雀
金 雀
澤 雀
大 雀
和 雀
柳 雀
蝶 雀
秋 雀
双 雀
京 雀
如 雀
水 雀

あ^{ハカ}る^カ乃^カれ^カあ^カ法^カと^カく^カる^カあ^カつ^カさ^カの^カ那
ま^{ハカ}く^カさ^カの^カ鹿^カ一^カ暮^カく^カあ^カの^カを^カ小
卷^{ハカ}冊^カ乃^カ息^カ吹^カう^カけ^カ於^カ暑^カも^カう^カ那
淵^{ハカ}珠^カ結^カ好^カ機^カと^カ通^カも^カあ^カの^カを^カ小
後^{ハカ}安^カに^カ解^カハ^カ足^カさ^カあ^カの^カを^カ小
今^{ハカ}破^カれ^カと^カ石^カと^カお^カも^カあ^カの^カを^カ小
あ^{ハカ}川^カき^カ日^カや^カう^カめ^カひ^カく^カあ^カり^カく^カあ^カの^カを^カ小
新^{ハカ}婦^カ乃^カ衣^カく^カく^カ産^カれ^カぬ^カあ^カの^カを^カ小
粘^{ハカ}糸^カ去^カ結^カ焼^カら^カり^カく^カあ^カの^カを^カ小
木^{ハカ}枕^カ乃^カ油^カ乃^カ熱^カ糸^カ河^カの^カを^カ小
牛^{ハカ}の^カ背^カに^カ日^カ法^カ乃^カ出^カ来^カる^カ暑^カと^カ小

能 登 七 尾
北 種
越 中
虎 岡
鳥 角
江 初 八 幡
雲 郎
帆 保
兔 士
全
一 鼠
全
雲 和
古 由

古今事類通考卷之三

古今片歌明題集卷之三

四十四

川中に艾の如び於あつと、な
 新株とさきり見とあつる素
 影つくと一節あつとさつな
 あつとさつと一節あつとさつな
 漆合乃乃河さつとあつとさつ
 川さつと子の四條とさつとあつとさつ
 砂浜乃乃さつとあつとさつとさつ
 之井とさつとさつとさつとさつ
 雲霞とさつとさつとさつとさつ
 飯帳ひとさつとさつとさつとさつ
 巻柏乃乃さつとさつとさつとさつ

深魚 西羊 素園 示行 竿秋 輕素 眠居 笑林 眠棠 雨篁

江戸 女 春 曙 京 常陸小田

船中さつと柳へさつとさつとさつ
 屋中さつと麻糸乃おほきあつとさつ
 一とさつとさつとさつとさつとさつ

常陸貞壁 秀橋 武本庄 女佳 月 五負

雲峰 くのこの

邸社にさつとさつとさつとさつ
 蛤乃城あつとさつとさつとさつ
 霽雨ハまどさつとさつとさつとさつ
 逆さつとさつとさつとさつとさつ
 さつとさつとさつとさつとさつ
 けあつとさつとさつとさつとさつ

北枝 其汀 川々 麥林 涼俣 梅路

古今片歌明題集卷之三

並 驚く 宇治乃 夕日や くの 葉
ほ あまく 物も 見し 花を 結 葉
る に 一 くの 牛の 毛 何や くの 花 葉
湖の 塵る ほ どの 一 くの 花 葉
暑き 日 花を つか づく や 毛乃 葉
涼 一 どの や つ れ 八 毛 くの 花 葉
鶉も 越 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
西行 と 歎 け ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

宜中

武野上野

長之

大阜

笑牛

秀陽

一声

兔士

凍雨 だゆふ

凍るや 人より も ら ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

珈凉

ゆ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
凍るや 嫩田の 日 柳乃 ぬ ぬ ぬ ぬ
凍るや 戸子 登の ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
ゆ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
凍るや 冷 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
ゆ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
ゆ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
ゆ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
ゆ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
凍るや 一 確 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
凍るや ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

一鼠

青戸

上毛板鼻

文眺

六村

伊勢山

乾什

去路

越後高田

鶏山

泰龜

破了

涼袋

中のたぢやや母中一孤蝶孤人よ泣く
凍るよ蓮へ丁班と上ヶくゆく

冬 涉
雨 石

薰風 かぜう

字はく出く夏の盡や風薫於

長崎
路 圭

避暑 ひさみ

涼一さや袖へなごるふを敷
涼一さよ水乃中ゆく夕かしく
夕よある物し〜〜ゆ〜〜み
こおも孤とおるよ不ああ夕〜〜

涼 袋
止 絃
許 六

護朽珠子梅座そ〜〜さ〜〜り
あ〜〜た石孤通出を〜〜み
川風孤鬱とわ〜〜むや夕〜〜み
磬麿の葉へ卵も〜〜さ〜〜み
終末乃紀へあお紅〜〜み
樹仕士の人〜〜さ〜〜み
恥路子汗ぬぐは〜〜み
幸とけを解乃落家〜〜み
在〜〜おハ根のつく〜〜み
葉枯〜〜葉の〜〜み
宛將橋〜〜葉の〜〜み

蘆 帆
能登橋
免 舟
輕 素
竹 浪
琳 李
上列高崎
山 小
瀾 城
怜 也
素 園
白 枝
江戶
紀 影

あふぐくと野掃乃下りてまきみうれ
涼しき中紙捲くくくくくくくく
替馬は二疋か首をくくくくくく
園存まぐ摺巻くくくくくくく
釣糸石お浜くくくくくくく
涼しき中橋の鼻負れ長み下り
新子川あまう歩くくくくくく
ゆきまきこみ解乃後をくくく
涼しき中目此般くくくくく
衣領くくくくくくくくくく

免士
雨篁
見風
全
温故
冠子
越後高田
既備
希因
岷郎
麥舟
江戸
由林

あふぐくと野掃乃下りてまきみうれ
涼しき中紙捲くくくくくくく
替馬は二疋か首をくくくくくく
園存まぐ摺巻くくくくくくく
釣糸石お浜くくくくくくく
涼しき中橋の鼻負れ長み下り
新子川あまう歩くくくくくく
ゆきまきこみ解乃後をくくく
涼しき中目此般くくくくく
衣領くくくくくくくくくく

李址
一鼠
松前
曲江
加賀金沢
松川
汶上
梅里
杉町
深魚
下総多古
常陸小田
素考
武赤山
免山

角能人能裸くーくもふくふ

文史

警者避暑 おどろきの

音と探つく文おきくこの那

古由

鞍馬竹伐 くらまのた

并伐れもぎハヤ 丹後 新ハ中

丹後 扶風

摺扇 あふき

孝行子奴情乃ふくれるあふきうふ
後うーく カウ 鬼のそよぐ カウ 何ふきこの那

一鼠 為谷

おさくくも雲乃ぬける河ふき
系能務ッ活ハ来くあふきこの那
もち之て名ハ教多河ふきこの那
折ハ折ハハ カウ 画ハ カウ 暑き河ふきこの那

眠石 棧雪 信列松本 琴時 奥列保原 五川 雀阜

團扇 ちん

老條乃名をくーく カウ 免く カウ 名を カウ 名を
呵不付極子能あハぬく カウ ちハこの那
棹極乃 カウ 極ハ カウ 小 カウ ちハこの那
折極ハ カウ 風ハ カウ ちハこの那

双飛 加賀山中 山隣 破了 祇巫

牧戸に火は曲りたるをさるる

湖十

算 たらむ

あゝむいそ 結つ川もあつたうむら
冷つこもこ 一橋の陰やたのむら
内外に 森物津やたのむら
紙乃 飛ぶ 懐歩 一たらむら

武青 我后 可也 西羊

竹夫人 かたごま

竹夫人のいかにまゝいとほひーさよ
夏ハ改弦うらゝるるや 竹夫人

涼体 維鳩

涼く 森る 橋乃 命婦や 竹夫人
まゝられと 子ハとよぎり 竹夫人
竹夫人のいびき 横ひ 結むつやーと
抱 終や ぞらゝ 向うも 骨の層

上列 富岡 雲 岷 越 見 風 素 琴 鼠 夫

掛香 かけ

無事や あへむえなる ぬ人でまー

季吟

浚井 はら

浚井や 忘れと 瓜と 口らら ち

兔士

曝布 ばら

も先く於る乃ち於るや〜〜白
善欠山乃新先事〜〜白
般於た〜於世中乃概や〜〜白
松うげも事〜〜れ〜〜〜白

上列茂園 椎雨
下総佐原 四孔
長崎 破了
宇鹿

清水 しみづ

山の山 志を里出〜〜清なる水
乃室口 山 志を里出〜〜清なる水
立よ海と見え〜〜遠〜〜志〜〜なる
魚〜〜り事〜〜も〜〜收法〜〜なる

武村岡 凉袋
温故
鬼士

人等乃流〜〜ハ事〜〜〜〜
澄き川〜〜なる〜〜おも〜〜
汗〜〜き事〜〜棄〜〜し〜〜水〜〜居〜〜る〜〜志〜〜なる
於禮の後〜〜へ〜〜こ〜〜む〜〜〜〜
玉藻〜〜へ〜〜於〜〜椒〜〜松〜〜〜〜
一〜〜口〜〜於〜〜物〜〜結〜〜く〜〜居〜〜る〜〜
一〜〜口〜〜ハ〜〜系〜〜鞋〜〜へ〜〜吐〜〜く〜〜
松籠キヨバシ孤コ荳マメ冷ヒヤ露ツキ乃ハ〜〜
冷ヒヤ露ツキ乃ハ〜〜
遠〜〜く〜〜来〜〜る〜〜系〜〜
飲〜〜さ〜〜し〜〜亭テ於カ盤ハシ魚イサ〜〜も〜〜
清スミなる水

上毛天間 凉机
伊勢四日市 曹
武大宮 律水
武小川 百道
常陸府中 泉
素琴
雨笠
洗雪
全
李址
凉袋

後々馬鹿解出さし一々何の事
先達乃か少くして志すよ一々何の事
剛力能治掌を治す一々何の事
剃刀と笈のりし切一々志す何の事
見よゆけと鏡乃たす能治水也
不為能新撰むる何の事治す何の事
静候一々一々おれを志す何の事
大名乃よご一々治すも志す何の事
不學能書と陳の事一々一々何の事
解去能同乃勤くあり一々治す何の事
路傍へ登りし北の物治一々何の事

一鼠
文東
東起
輕素
未了
參水
江扇
入楚
能查七尾
宜考
秋干
買朋

振袖也後一々志す一々何の事
大橋一々何の事一々治す何の事
あ一々と馬へ費す一々一々何の事
望乃端を志す一々一々何の事
少く志す何の事一々一々何の事
空にさく志す一々一々何の事
飲ぶ何の事人を見よ一々一々何の事
湯杖を思ふ一々一々何の事
船政能出さし一々一々何の事
野々来た息一々一々何の事

一紅
瀾城
白枝
祇棠
以秀
古硯
画洲
可御
真列福鳴
柳水
斗光

古今月歌明集卷之二

奉^{ホウ}湫^{キウ}と吉^{キチ}持^ヂ河^カ江^カ一^イ斗^ト十^{シウ}
本^{ホン}寄^キ下^カ毛^モ下^カ一^イ斗^ト十^{シウ} 岩^{イワン}に日^ヒの霞^{カサ}は清^{セイ}く水^{スイ}

葛^{クワ}粉^{コン}水^{スイ} 二^ニ斗^ト十^{シウ}に

葛^{クワ}粉^{コン}水^{スイ} 一^イ斗^ト十^{シウ}に 鹿^カ島^{シマ}のうへ

葛^{クワ}粉^{コン}水^{スイ} 一^イ斗^ト十^{シウ}に 小^コ指^{サキ}山^{ヤマ}川^{カハ}もは付^{ツキ}寸^{サウ}ぞ

瓊^{ユウ}飯^イ 一^イ斗^ト十^{シウ}に

瓊^{ユウ}飯^イの友^{トモ}也^ヤ 河^カ江^カ一^イ斗^ト十^{シウ}に

山城^{ヤマシ}深^シ州^{シュウ}

元^{ゲン}政^{セイ}

餉^{クウ} 一^イ斗^ト十^{シウ}に

紫^{ムラサキ}年^{ネン}花^カ僕^{ボク} 一^イ斗^ト十^{シウ}に 東^{トウ}奴^ヌ

瓊^{ユウ}脂^シ菜^{サイ} 一^イ斗^ト十^{シウ}に

交^{キウ}走^{ソウ}賣^バ花^カ奴^ヌ 一^イ斗^ト十^{シウ}に 瓊^{ユウ}脂^シ菜^{サイ}

交^{キウ}走^{ソウ}賣^バ花^カ奴^ヌ 一^イ斗^ト十^{シウ}に 其^キ角^{カク}

交^{キウ}走^{ソウ}賣^バ花^カ奴^ヌ 一^イ斗^ト十^{シウ}に 美^ミ濃^{ノウ}北^キ方^{ホウ}

交^{キウ}走^{ソウ}賣^バ花^カ奴^ヌ 一^イ斗^ト十^{シウ}に 去^{キョ}路^ロ

交^{キウ}走^{ソウ}賣^バ花^カ奴^ヌ 一^イ斗^ト十^{シウ}に 貞^テ佐^サ

交^{キウ}走^{ソウ}賣^バ花^カ奴^ヌ 一^イ斗^ト十^{シウ}に 几^キ山^{サン}

冷^{レイ}料^{リョウ} 一^イ斗^ト十^{シウ}に

古今月歌明集卷之二

冷嶽戸あ〜〜〜如〜〜〜
夫考

練告天子 練

好衣と〜〜〜れた形や待告乙子
武本庄 女市 紅
凡〜おひく人の言さよ疎ひは
武橋 五 表
〜りり〜空〜
武橋 白 圭

蟬 蟬

新〜〜〜さ〜〜〜や其の蟬
双 飛
松松と〜〜〜
左 龍
松松と〜〜〜
左 龍

うつやあは水汲り〜〜〜
庭 城
陰子健首世は是戸〜〜〜
一 鼠
葉葉のぬけ〜〜〜
可 枝
俵 ヒナカリ 牛〜〜〜
信列松本 素 秋
土〜〜〜
涼 俵
極〜〜〜
尾城 酒 文
口〜〜〜
木 兒
帆板〜〜〜
冠 子

飛蛾蟲 飛蛾蟲

は〜〜〜
京 野 童

鷓鴣川

涼—さハおくひもあつて驚ふ事ハ
皆麻さくましくぬ火ひく川くまハ
老の才孤子にあつてぬ驚驚ふ事ハ
新ふとえつけくもあつて驚ふ事ハ

梅路 涼袋 免士 眠棠

川漁

川がりや 柳の影了人のふ名
川がりや 柳の影了人のふ名
川がりや 柳の影了人のふ名
川がりや 柳の影了人のふ名

長味 涼袋 越馬田 幾里 虹

川海柳の影了人のふ名
川漁也 柳の影了人のふ名
川漁也 柳の影了人のふ名
川漁也 柳の影了人のふ名

加金 燕 岬 呂

瀛繪

瀛繪 柳の影了人のふ名
瀛繪 柳の影了人のふ名
瀛繪 柳の影了人のふ名
瀛繪 柳の影了人のふ名

出雲 波上 楚梅 多少 凉州

鯖釣

鯖釣 柳の影了人のふ名
鯖釣 柳の影了人のふ名
鯖釣 柳の影了人のふ名
鯖釣 柳の影了人のふ名

肥前 楚外 平戸

海母捕 くらげ
海母とる 産卵がりのいさぎ

磯崎高松
燻 峯

萍 うき

萍やうき うき 月影の
うき うき 瀬 うき のいさぎ
萍や うき 院のいさぎ
うき うき 院のいさぎ
うき うき 院のいさぎ
うき うき 院のいさぎ

希 因
全 筏
双 飛
江 換
大 阜

うき うき 院のいさぎ
うき うき 院のいさぎ
うき うき 院のいさぎ
うき うき 院のいさぎ

乙 路
麥 林
李 北
洗 雲

藻花 むぎ

藻花 むぎ 院のいさぎ
藻花 むぎ 院のいさぎ
藻花 むぎ 院のいさぎ
藻花 むぎ 院のいさぎ

江 群
青 藍
双 飛

菱花 ひし

古今行歌明題集卷之二

乃乃浮游^キ遊^ミ也^ハ | 之^ハ如^シハ | 一の^ハ如^シ
多^ク其^ノ形^ノ下^ニ | 後^ニ流^ル也^ハ | 其^ノ乃^ハ花

津國魚崎

南 蘆

萍蓬州 ^{ヤウネ}

加賀金沢

岸 呂

かハ切^リ也^ハ | 一^ノ輪^ノ身^ノを^ツき^に如^シ也^ハ
岸^ノ蓬^ノ也^ハ | 魚^ノを^ツれ^ども^如也^ハ也^ハ
一^ノハ^ハ何^レ也^ハ | 猪^ノ頭^ノも^亦 | 乃^ハ之^ノ也^ハ
か^ハ何^レ也^ハ | 孩^ノ | 一^ノ年^ノ取^ル也^ハ也^ハ

希 因 東 奴 素 堂

蓮花 ^{ハスレノ}

志 山

其^ノ乃^ハ何^レ也^ハ | 新^ノ糸^ノの^{志^ハ何^レ也^ハ | 是^ハ可^シ也^ハ也^ハ}

譬^々と^シ魚^ノも^亦 | 其^ノ如^シ | 以^テ是^ノ如^シ | 其^ノ如^シ
水^ノも^亦 | 其^ノ卵^ノも^亦 | 其^ノ如^シ | 荷^ノ也^ハ也^ハ
其^ノ如^シ | 肩^ノ祖^ノ | 一^ノ年^ノ | 荷^ノ也^ハ也^ハ | 其^ノ如^シ

莘 魁 洗 雪 青 藍

剪刀州 ^{ハサミ}

肥後八代

左 嵐

其^ノ乃^ハ何^レ也^ハ | 解^ノ之^ノ | 其^ノ如^シ | 其^ノ如^シ

鷺鷥州 ^{ササギ}

相生

宇 冲

鷺^ノ鷥^ノ也^ハ | 旋^ノ月^ノ也^ハ | 其^ノ如^シ | 其^ノ如^シ
窟^ノ子^ノ也^ハ | 其^ノ如^シ | 乃^ハ之^ノ也^ハ | 其^ノ如^シ
其^ノ如^シ | 其^ノ如^シ | 其^ノ如^シ | 其^ノ如^シ

肥前 尼紫 貞

瞿麥 1かこで

なごぐーーろや牛とくろくぬるほ
あでーーろやー一輪つふさきとちり

破了 冠子

風蘭

風蘭や夏姑衣^{イカウ}紫へや先りーまる
風蘭や眠た心寂とあげりゆく

上七下仁田

梅布 維鳩

地参 っりりう
つくさ

明やまきあやーつりばさのろを備う

美濃関

李仁

鋸齒葉景天

気極く毛虫をほくろきまらんそあ

汶上

射干 ^{ひあ}
^{あま}

ひああま中虫^{スガシ}孔とおりゆろそ
飛河^{ミヤカキ}と他^{ミヤカキ}一ツと甲あり

出羽 凉傘
風草

旌節草 ^く
^い

くまんとあ大もあーあ林^フ葎^フの甲

杉路

虎耳草 ツバキ

除るるむのけしきやゆきおき

丹波 仙壺

葛花 クズ

よみへおれをまきしきおむ
あまのまをまきしきおむ
川まきのまおまきしきおむ

去路 双飛 涼宇

鼓子花 ヒメ

ひねがややまきのまにまき
鼓子花やまきしきおむ

下總横須賀 青藍 馬

鼓子花やまきしきおむ

涼袋

ひねがややまきしきおむ

全

鼓子花やまきしきおむ

芳楚

ひねがややまきしきおむ

也有

鼓子花やまきしきおむ

可由

ひねがややまきしきおむ

一鼠

鼓子花やまきしきおむ

眠石

ひねがややまきしきおむ

素園

ひねがややまきしきおむ

維鳩

古今月歌明集卷之三

ゆふぐちや月やあつくと白はあつと
臺へ魚もやみ草あつとぬ魚も魚
中ふがやももどけをえれを人の家
臺へ魚もや瀬もおろさげ人も魚
能登縣 越高田 李 大 至 眠 棠 羊

匏花 とうなひ

うぐいす花喜乃盆イシモノやむひさご
糸も乃数ほごさそがぬひさごうち
ま〜るのなをうごくやむひさご
笑 林 雨 志 州 志

凌霄花 れいせう

凌霄花 蔓るやういくは乃う
下総佐原 恩 明

向日花 ひまわり

日おりや一節くさむさうら
芭 叩

草綿花 くさわたな

是見やと白もさくは善勝也
今乃日一ぬくめくさやそのまれ
姑一待好く数やそのまれ
鬼塚 武用戸 其 葉 伊勢山田 文 史

茅膏菜 まぐさ

古今片歌明集卷之二
麻を——さひさりさきもなきあきあ

加賀山中
枕 夫

燈心草刈ぬ

喜々聲、雀をを刈ぬ人の踏も見は

肥後小川
養 湖

麻刈 あり

麻刈や志まのを見れば人があ

去 路

麻刈やまの影あふるをのこさ

義濃峻阜
童 平

麻刈や一漣づり日影あきあ

同 長良
有 琴

藍刈 あり

藍刈や紺色の端もろろりしど

上毛島寄
吳 鈞

甜瓜 まくハ

葉かゝるは葉のしるすもけ

蒼 狐

危下く人を振くや瓜はたき

双 瓜

醫者ハサシ、葉のせぬはくハ

伊豫大洲
梅 丈

角門ハサシ、截切はまや瓜 圃

州 羽

子鞋を反ッてむもふやう圃

金 谷

百日紅

百日紅の四日ハ減——

くせ狐

古今片歌明集卷之二

本はがその所通がはより担もべり 李北

天満祭 まつり

水くハ水へもをつくまほるが
提漉で水もよめふはつりうを
徳安く汗をさへお祭う那
子教の花さも飛ッや梅はく

梅林

一鼠

青藍

瀾城

住吉祭 まつり

死時橋り順 まつり いさよはるが
二毛岡野 十雨

御稔 みね

海山におさく水もみそがうか
浮のね小えくく留や清後川
是まぐと夏いもをうつ後

大至

田社

凉儀

